

高信頼性ICタグ

天国から地獄へ

最新鋭旅客機ボーイング787のトラブルは先端技術と信頼性に関して大きな教訓をもたらせています。この技術は日本の企業によるものが多いからからです。

今後数千機の需要が予想されるビッグビジネスで、日本の企業は、タイヤ、バッテリー、構造体その他の大きな展開予想で天国のような状況ではなかったかと思えます。それが、信頼性に結びつく大きな落ち度が見つかりと一気に企業信頼性が低下してビジネスは苦境となります。

旅客機のようなトラブルで直接人命に関わるものは、設計、製造、検査は厳重に遂行されているものと思えます。ただ、新技術採用のよいチャンスと思う反面、抜けが出ていないか十分検証すべきと思えます。油断は禁物です。

高信頼性と信じていたものが信頼性で問題が一つでも発生すると、メーカーはもちろんのこと、運用会社ともども天国から地獄への苦境を強いられます。(株)R&Vが高信頼度ICタグの活用を主張する理由はまさにここにある訳です。